聲明書

我國無產階級運動史の上に特筆すべき意義深き**三月十五日**を期し諸君の胸の中に持つ多くの不平と要求の一部は最少限度嘆願書の形式に依て提出された其回答は二ケ月後當時口約に基く**五月十五日**さるべき筈なりしに突如として回答を一日延期して來たのである、是れ何故か不誠意なる當局理事者は自助會全從業員が多くの期待を持つ此嘆願書を拒絶する事に依る其結果を恐れたのである、故に我等に回答する以前に於て回答案を提て電氣局長は勞働組長を伴ひ組員無視部長を訪問し回答に對しての打合せをなしたのである、何たる當局理事者の暴慢ぞ、我等が提出したる嘆願書の回答に對し觀察部長と談合する迄に、我等に對する回答を延期し、然して警察權の發動を促し其庇護の中に回答を與へたるが如きは實に奇怪至極と言はざるを得ない、**是こそ資本主義末期に於ける金權の合流提携**に依て資本主義社會の存續を計らんとする彼等の最後的恐怖の現れ出なのである、だが壓止せざる歷史と共に其使命を果さんとする我等の組織と結ばれたる力は彼等の此死物狂ひの手段も嚴重なる警戒も打破て押寄せる全從業員の波は刻々と高まり其威力は彼等をして戰慄せしめた斯くして大衆の壓力に守られたる回答も其結果は殆んど一蹴されたのである、嘆願書の回答は一蹴さる我等が敢行せし大衆的鬪爭の威力は實に偉大なるものである、此の挑戰的回答に對する憤慨の聲は全支部に漲り大會を開け再嘆願書？要求書に依て提出すべし、**然して最後迄戰への叫びは各所に猛然として揚げられたのである**

我等も此の回答に絶對的の不滿を持つものであるが今直に回答をして鬪爭開日として當局に對する我が自助會罷業の攻撃を開始する時こそ彼等が死物狂ひの計略の術中に落入る事の明なる事を知る故に、一度び血涙を呑んで打切るものである、だが是れが**目的貫徹の鬪爭**は絶對續くるものである、斯の如き嘆願書の運命は獨り自助會のみに止らず、電氣勞働及愛友會も共に同じ運命の下にある、是こそ我等の組織の欠點の結果に依るものである、だが實に不滿は局内一万人の不滿である故に、我等は此不滿を統一し共同鬪爭を實敢になすと共に局内組合合同へと進展なさしむる事が我等に果せられたる否爲さねばならぬ重大なる任務であると共に、我等は此大同團結の力なくして眞に自己の生存權を守る武器は他にあり得ないのである、**見よ 我等が組織の力に恐怖したる當局が、最近進めつゝある戰鬪準備反動組織への確立を、**然して最も險なる現れこそ（前高等課長）でありし山本氏をして勞働課長の就任（警察と聯絡を取るに好都合である）修養團に依る反動分子の養成在鄉軍人會、少年團保護者會等に依る反動組織の注入と組合との分離策自助會監督に對する電車運轉の習得維持て事務員轉換作號人にも習得せしむる方針個人的には强硬分子に對する嚴重主義者に對する懷柔等々實に計畫的に運ばれつゝある此の反動網を如何にして粉碎するか、是亦我等の忘れる事の出來ざる使命なのである、今や濱口內閣の金解禁緊縮政策に依る極端なる資本家的産業の合理化に依る犧牲は完全に我等勞働階級に轉化され、全土を吹き捲くる失業の嵐は急テンポを以て進められ至る所に工場閉鎖、解雇、賃銀引下げ、時間の延張、昇給賞與の減額徹廢は實に枚擧するに遑なし、斯くして產業後備軍の編成は只に幾利事業のみに止らず、今回東京市電に於ける二十ケ年以上の者に對する退職金の削減、賞與の減額、早鈴の停止、神戶市電の減員、組合破壞等々、國家公共團體の財政難に於て是が打開策は毫も營利事業と異る事なく寧ろ公的事業の美名の裏にかくれて彼等支配階級が抵抗力薄弱なる我々に對する奪取と壓迫を恣まゝにするのである、金解禁の利益に均霑する事絶對になき我等勞働階級を苦しめ資本主義的方便の犧牲のみ我等に負擔さすが如き事を絶對に服容する事は出來ないのである、是に對して我等が取るべき道こそ**只一つ最後的手段に訴へ鬪ふことこそ生存權の行使でなくて何ぞ、**然るに最近の爭議に於ける官權の態度は實に完全なる資本家地主の手先としての露骨なる正體を現し、此當然なる合法的運動にすら破壞主義を以て終始しつゝあるのである統中交通勞働者の爭議の場合に於ては特に甚しき壓迫を恣まゝにする事は言語に絶するのであり、法律的政治的に社會的にあらゆる干渉と壓迫の中を進み行く我等交通勞働者の鬪爭こそ實に苦鬪其物である、然し如何に彼等が權力を振ふ共暴力を以て襲ひかゝろうと共我等勞働者の組織は破壞さる共彼等に對する反抗の意識は絶對に踏躙る事の出來ない事を確信する一面彼等が斯くる手段に依らざれば防禦する事の出來ざる所に**眞に我等交通勞働者の職業の重大と威力がある、**我等は自己の携る事業の何物たるかをハッキリ認識すると共に此眞大性を把握し然して組織の擴大と强化に一大拍車を加へなければ濟り我が大阪市電のみが此の壓害を棄る事の無き事を何人か保證し得られようぞ、今や下らんとする當局の彈壓に備へん爲めの覺悟と、內容の充實を計る事こそが、刻下の急務である事を痛感するものである、民衆の眞に味方するや後則伸びんが爲め、故に一度び鋒を納むる擴大中央委員會の態度を啟せられて**益々組織の充實と次の鬪爭への準備に邁進されん事を切望するものである**

右聲明す

一九三〇、五、一七

日本交通勞働總聯盟

大阪市電從業員自助會

擴大中央委員會

署名人　大阪市港區八幡元町一ノ二八八　中井一夫